

2026年2月2日

各 位

会社名 株式会社 東京通信グループ
代表者名 代表取締役社長 CEO 古屋 佑樹
(コード番号: 7359 東証グロース市場)
問合せ先 取締役 CFO 赤堀 政彦
(TEL. 03-6452-4523)

ティファレト、AI コミュニケーション統合管理システム
「TICMS（ティクムス）」本導入のお知らせ

当社子会社の株式会社ティファレト（本社：東京都港区、代表取締役社長：福島勇人、以下「ティファレト」）は、AI ソリューションを提供する、東京大学「松尾研発スタートアップ」※企業である株式会社 Unseed（本社：東京都文京区、代表取締役：山邊 璃久、以下「Unseed」）と共同で開発を進めてまいりましたAI システムについて、開発工程を完了し、本導入を開始いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

本件は、2025年9月18日付「ティファレト、生成 AI 活用による CS 業務効率化を推進」でお知らせした通り、AI 技術の活用による業務拡大を目指す一環として、ティファレト社が展開する電話占いサービス事業における「電話占いカリス」、「SATORI 電話占い」及び「恋愛相談 METHOD」の各相談サービスにおいて、生成 AI を活用した CS（カスタマーサポート）業務の効率化を目的としております。

※「松尾研発スタートアップ」とは、松尾研出身者が創業または松尾研の支援を受け創業された企業の内、技術・事業力共に成長可能性が認められ、且つ松尾研の理念に共感し共にエコシステムの拡大に取り組む、選抜されたスタートアップ企業群です。（登録商標第6667237号、第6710069号）

記

1. 本件の概要

本 AI コミュニケーション統合管理システム「TICMS（ティクムス）」は、「Tiphereth Intelligent Communication Management System」の略称であり、ティファレト社の電話占いサービス事業における各相談サービスの顧客と鑑定師との多数のコミュニケーションに対する内容精査及びフォローアッププロセスを自動化することを目的として、Unseed 社と当該 AI システムの共同開発を進めてまいりました。

当該 AI システムは、開発工程を完了し、実運用フェーズへ移行したことから、本導入を開始しております。

なお、当該 AI システムは、先進的な生成 AI ソリューションを活用し、LLM（Large Language Model：大規模言語モデル）※技術に基づく自然言語処理機能を駆使しており、従来は人手に依存していた煩雑なチェック業務や進行連絡を効率化し、業務処理の迅速化と正確性向上を通じたサービス品質の改善を実現するとともに、担当者の負荷軽減による人員リソースの最適配分を可能といたします。

2. 本取り組みの位置付け

本取り組みは、ティファレト社が今後の成長に向けて重要なテーマの一つと位置付けている「生成 AI の活用」を具体的に推進するものであり、単なる業務効率化にとどまらず、電話占いサービス事業が属するプラットフォーム事業の競争力そのものを再定義することを目的としております。ティファレト社は、生成 AI を含む AI 技術を活用したデータドリブン経営への本格的な移行を通じて、持続的な成長を実現してまいります。

※LLM（Large Language Model：大規模言語モデル）とは、大規模なテキストデータを学習することにより、人間の言語を高度に理解・生成することを可能にする AI モデルであり、生成 AI の基盤技術として活用されています。

3. AI システムの特徴

当該 AI システムは、ティファレト社が長年にわたり蓄積してきた電話占いサービス事業に関する運用データ、顧客データ及び業務ノウハウと、Unseed 社の高度な AI 開発技術を融合し、実運用を前提として共同開発したものです。

本システムは、主に以下の特徴を有しております。

(1) オペレーションの自動化・効率化

各相談サービスにおいて、テキストコンテンツを中心とした業務プロセスの自動化を推進しております。具体的には以下の取り組みを実施しております。

- フォローアップメールの品質管理最適化

鑑定師から顧客へ送付されるメッセージを対象に、各鑑定師の個性を尊重しつつ、ホスピタリティの維持・向上及び適切なコミュニケーションを担保するための確認・検品プロセスの自動化

- 相談レビュー確認プロセスの自動化

顧客から寄せられる相談レビューについて、内容確認及び品質管理の迅速化を図るとともに、サービス改善に向けたフィードバックサイクルの高度化を推進

- ブログコンテンツの品質管理高度化

鑑定師が発信するブログコンテンツについて、ガイドラインへの準拠状況及び情報価値の観点から確認・精査するプロセスの効率化

(2) 業務品質の安定化及び効率化の向上

本システムの導入により、個々人のスキルや属人性への依存を低減し、業務プロセスの標準化を進めることで、業務効率の最適化及び業務品質の安定化を図っております。

(3) 収益構造の改善可能性

これらの取り組みを通じて、運用コストの抑制や人的リソースの最適配分を実現するとともに、サービス品質の維持・向上を図ることで、中長期的な収益構造の改善に寄与する可能性があるものと考えております。

4. 今後の展開

今後は、本 AI システムの運用を通じて得られるデータ及び知見を活用し、AI モデルの継続的な改善や機能拡張を進めるとともに、プラットフォーム事業周辺領域への横展開も視野に入れ、「AI × 事業」による成長の再現性確立を目指してまいります。

5. 業績に与える影響

本件が連結業績に与える影響は軽微であります。

以上